

“わたしのまち”

区内には時代を経ても地域に親しまれる祭りや行事が多い
特にボロ市は区内外からも多くの人が集まる
上：昭和20年代のボロ市 下：現在のボロ市の様子

世田谷区

世田谷の今昔物語を味わう

伝統行事を知って歴史を探訪する

自分が住むまちを散策してみると、歴史や地域に根付いた伝統ある行事など、それまで気付かなかった新しい魅力に出会い満ち足りた気分になることはありませんか？
世田谷区には、区外からも多くの人が訪れる催し物や、長い歴史の中で地域の人たちが受け継いできた伝統ある祭りなど、さまざまな行事が季節を通して行われています。
今回は四季折々の世田谷の伝統的な行事を紹介します。一緒に歴史探訪してみませんか。



伝統的な催し、春夏秋冬

世田谷区には、世田谷、北沢、玉川、砧きたかみ、烏山くわやまの5つの地域があり、それぞれ異なる風情の中にあつて地域に根付く伝統的な行事や祭りが行われています。

春

●しもきた天狗まつり(真龍寺)

(北沢地域・2月)

下北沢には「道了尊じどうりょうそん」の名で親しまれている曹洞宗大雄山真龍寺があります。ここでは、昭和初期からほぼ毎年、節分祭「しもきた天狗まつり」が行われ、その中でも「天下一天狗道中」が祭りを盛り上げます。

山伏の吹くほら貝や太鼓の音に合わせ、お寺から下北沢の商店街を豆を撒

きながら練り歩きます。行列には大天狗や高さ約3m・幅約2mの巨大な天狗面を乗せた大天狗面車があり、多くの見物客でにぎわいます。
珍しいのは豆まきの掛け声です。
「鬼は外」とは言わず「福は内」を3回繰り返すのみです。これは真龍寺の開祖道海どうかいぜんし禅師の「心の中に福を満たせば鬼は自ら退散していく」という教えによると言われています。

●九品仏のお面かぶり(浄眞寺)

(玉川地域・5月)

九品仏の名称の由来である9躰の阿彌陀如来像が納められている浄眞寺では、3年に一度「二十五菩薩来迎らいごうえ会」が行われます。通称お面かぶりと言わ



須賀神社の湯花神事



九品仏のお面かぶり



天下第一天狗道中の様子。練り歩きの行列には大天狗や大天狗面車もあり、祭りを盛り上げる



れ、阿弥陀さまが25人の菩薩さまやお稚児を従えご来迎になるといいう行事で、黄金の菩薩のお面をかぶった25人が、本堂と上品堂の間を厳かに往来します。一昨年までは8月16日に行われてき

ましたが、かつては5月8日の千部法要(阿弥陀経一千巻を読経)に合わせて行われていたことから、次回(平成29年)からはこれに合わせて5月5日に行われることになりました。

夏

●須賀神社の湯花神事

(砧地域・8月)

承応年間(1652〜54年)に喜多見久大夫重勝が喜多見館内の庭園に勧請したのがはじまりといわれる須賀神社は、地域で「天王様」と呼ばれ親しまれています。

8月2日の夜に行われる湯花神事は、神宮がまく湯が身体にかかると一年間病気をしないとされる厄払いの神事です。

社殿の前には大釜が据えられ、その周囲四方には笹竹が立てられ注連縄が張られます。世話人が麦わらに火をつけ大釜で湯を沸かすと、神官が祝詞をあげ火と湯を清めた後、笹の葉に湯をつけて四方にまき、厄をお祓いします。

秋

●奥沢の大蛇お練り(奥澤神社)

(玉川地域・9月)

奥澤神社の大蛇お練りの様子。掛け声とともに約4kmの道のりを2時間半かけて練り歩く壮大な行事だ



世田谷区奥沢にある奥澤神社では毎年9月第2土曜日に「大蛇お練り」が行われます。

江戸時代の中頃、奥沢の地に疫病が流行し多くの村人が病に倒れ、ある夜、この村の名主の夢枕に八幡大神が現れ「藁で作った大蛇を村人が担ぎ村内を巡行させるとよい」とのお告げがあり、早速そのとおりに実行するとたちまち疫病が治つたと伝えられています。

この言い伝えによって奥澤神社の例大祭では厄除け・開運を祈念し、毎年秋の取入れが済むと新しい藁で大蛇を作つて村中を練り歩き、鳥居に厄除けの大蛇が飾られます。

祭りの当日は、氏子たちの担ぐ大蛇が神社境内を一周した後、付近の住宅



吉田松陰をはじめ幕末の志士などに扮した総勢約200人がパレードする

街や商店街など奥沢のまち約4kmの道のりを2時間半ほどかけて練り歩き、社殿に奉納されます。

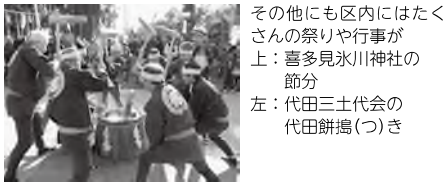
担ぎ手の氏子たちが「わっしょい! わっしょい!」と威勢よく掛け声をかけあいながら、大蛇を担ぎ歩く姿はなかなか壮大で、沿道には伝統行事を一目見ようと大勢の人が詰め掛けます。

●萩・世田谷幕末維新祭り

(世田谷地域・10月)

幕末の思想家、教育者である吉田松陰が祀られる松陰神社では、毎年10月に、吉田松陰にちなみ幕末と明治維新をテーマに「萩・世田谷幕末維新祭り」が開催されます。注目される催しのひとつとして、世田谷区役所中庭から松陰神社へと進む「幕末の志士十奇

世田谷ポロ市は一日に約20万人の人でにぎわう



その他にも区内にはたくさん
の祭りや行事が
上：喜多見氷川神社の
節分
左：代田三土代会の
代田餅搗(つき)

世田谷の冬の風物詩である世田谷ポロ市は、12月と1月の15・16日の年2回、4日間、通称「ポロ市通り」とその周辺で行われる催事です。700店の

が、日清戦争以降、古着やポロが多く、
鎌・手桶・火打石も売られていたが、
当時は農具市ともいわれるように鎌・
売られるものも時代とともに変わり、
の年2回となって現在に至ります。

●世田谷ポロ市

(世田谷地域) 12月・1月

冬

兵隊パレード」があります。
吉田松陰をはじめ幕末の志士や奇兵
隊、新撰組などに扮した総勢約200
人が、大砲、鉄砲、槍などの武器(擬
似品)を携え、隊長の号令できびきび
と行軍します。道中、奇兵隊は「捧げ
筒」(銃を持った敬礼の一種)を行っ
たり、一斉射撃のパフォーマンスを行
うなど迫力満点で、沿道に集まった人
たちを楽しませてくれます。

以上の露店が並び、1日に約20万人も
の人出でにぎわいます。
ポロ市はもともと楽市を起源として
います。天正6年(1578年)、関
東を制覇した小田原北条氏が、当時は
吉良氏の領地であった世田谷を、交通
の要衝として重視して新宿を設置し、
その保護振興策として市を開くことに
したことが始まりです。当時は毎月1
の日と6の日に月6回開かれていたの
で六歳市ともいわれていました。

なり、特に着物のつぎやわらじの補強
に使われるポロが盛んに売買され、午
前中に売り切れてしまうほど人気だっ
たため、「ポロ市」の名がついたとい
われています。
現在は骨董品や着物、植木などの露
店が並び、毎年多くの人がポロ市を楽
しみにしています。

観光アプリを使つてより楽しく

活用したい「世田谷ぶらっと」

紹介した伝統的な催しのほかにも、
世田谷には自然や風景、特徴ある街並
みなどたくさん魅力ある散策スポッ
トがあります。
そんな区内の魅力を見つけ出し、多
くの人とシェアできるのが「まちなか
観光アプリ『世田谷ぶらっと』」です。
『世田谷ぶらっと』は、多くの人に
世田谷のまちをさらに好きになつても
らうことを目的に作られたものです。
費用は無料で、2016年2月末現在
約7000ダウンロードされています。
例えば、世田谷にお住まいの方が区
内で見つけた魅力を写真に撮って投稿
することで、テレビや雑誌に載らない
ローカル目線での魅力をアプリ利用者
に伝え合うことが可能です。
このアプリには、まちあるきモデル
コースの紹介や利用者の位置情報をも

われています。
「世田谷ぶらっと」を案内することもで
き、区への来訪者が増えることも期待
されています。
このアプリを使つて自分ならではの
世田谷の観光を楽しんでみては？



QRコードから
無料
ダウンロード

観光アプリ「世田谷ぶらっと」を活用して、
身近なまちの魅力を知ることができる